

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093000042		
法人名	医療法人 せいわ会		
事業所名	グループホーム おもやい (西棟)		
所在地	〒818-0032 福岡県筑紫野市大字西小田991番地1 Tel 092-919-7371		
自己評価作成日	平成 22年 9月 27日	評価結果確定日	平成 22年 10月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念である「いきいき・のびのび・自分らしく」を基に、利用者の方が生甲斐を感じながら、楽しく生活して頂ける様な支援を心掛け、全職員で業務にあたっています。また、併設の病院が隣接している為医療への対応が素早く行える。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	平成22年 10月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

黄金色に色づいた稲を、小気味良い音と共にコンバインが、刈り取る稲刈りの風景は、いつまで見ても飽きないものがあり、その、田園地帯の中に、病院、老健施設、デイケアサービス等の複合型福祉施設と併設した「グループホーム おもやい」がある。地域の医療、介護の拠点として、充実したサービスを提供するために、質の高い職員がチームワークで、自立支援に取り組む姿勢は、安心して任せられるという、家族の信頼に繋がっている。近隣に民家は少ないが、地域の夏祭りや清掃活動、中学生の体験学習や実習生を受け入れたりして、交流の輪が少しずつ広がっている。また、家族会を開催し、家族が抱えている悩み、心配事、要望等話し合う場を提供し、利用者や家族が安心して暮らせるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・事務所に理念を掲げ、常に意識し、実践できるよう努めている。	「いきいき、のびのび、自分らしく」を理念に掲げ、玄関や事務所に掲示したり、会議の場で理念に触れるなど意識づけを行っている。職員は理念を共有し、利用者のペースに合わせた介護を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパー等への買い物や地域の行事等への参加を積極的に行っている。	併設の法人事業所以外は近隣に民家がない中で、地域の清掃活動、夏祭り、フリーマーケットなどに参加している。地域の方が散歩途中で事業所の見学に来てくれたり、中学生の体験や介護実習生の受け入れなど地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学に来られた方への説明を行っているが、地域の人々に活かしているとは言えない。今後、努力していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見等は、施設会議で話し合いサービス向上につなげている。	利用者、家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員がメンバーとなり、2ヶ月に1回開催している。ホームの現状報告や地域の行事等情報交換している。会議で出された意見については、検討しサービスの質の向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括の方に入って頂き情報交換を行ったりアドバイスを頂いている。また、不明な点などあれば、直ぐに市の担当者に相談している。	事業所での問題点や、わからない点など、市の担当者に相談に行き、アドバイスを受けるなど連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての学習(ビデオ学習)を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。施設には2ヶ所の玄関があり、1つの玄関は常時施錠しているが、メインの玄関は、夜間20時～朝8時まで防犯の為の施錠を除き、日中はしていない。	法人内で身体拘束廃止について、ビデオ学習を実施している。2ユニットで玄関は2ヶ所あるが、現在は1ヶ所のみを使用し、日中玄関には鍵をかけていない。併設施設にも協力をお願いし、利用者が一人で外出した際には声をかけてもらうようにしている。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止に関するマニュアルを整備することが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人としての尊厳を最重要視を目的として、虐待防止関連の研修を実践する等、職員の意識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	管理者や職員は外部研修にて成年後見制度や日常生活自立支援事業について学んでいる。また、内部研修も行き、必要な方には支援できるようにしている。	職員全員が理解し支援できるように、管理者や職員は外部研修に参加し、成年後見制度や日常生活自立支援事業について学んでいる。また、研修に参加できなかった職員に対しては内部研修を実施し支援体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または、改定などの際は十分に説明し納得して頂き、同意を得たサービスの提供を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族等の意見、要望はその都度伺い、施設会議にて話し合い、運営に反映させている。	利用者にも運営推進会議に参加してもらい、意見を伝えられる機会を作っている。家族の方には来訪時に意見や要望を伺い、出された意見は、会議等で話し合い運営に反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度施設会議を設け、話し合い反映している。緊急を要するものはその都度、話し合っている。	毎月の会議前に職員にアンケートをとり、全員が意見を出せるよう工夫をしている。その意見をもとに職員会議を開催し、全員で話し合いを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを感じられ、いきいきと勤務できるように努力している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に当たっては、性別・年齢・学歴など関係なく採用している。また、得意とする能力を十分に発揮できるように配慮している。	職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢・学歴などの制限はない。職員一人ひとりの資格や得意分野を活かした業務についてもらい、生き生きとしたケアを実践している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修を行う等、日頃から人権尊重に対する指導、啓発に取り組んでいる。	法人内研修を行うと共に、理念にある「いきいき、のびのび、自分らしく」を大切に、日頃から利用者の人権を尊重した対応を心がけている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に可能な限り参加するよう周知徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の訪問や意見交換等で、良い点を自施設に取り入れる等、サービスの質の向上につながるよう、取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談はもちろん、必要に応じて体験入居など行い、安心・安全を感じて頂けるように心掛けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時十分な時間を取り、困っている事、不安などを聴き、解消・改善に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の聴き取りから、必要とされている支援を見極める様に努力している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員という関係ではなく、日々の生活を一緒に過ごしている家族のような一員として、喜怒哀楽を共にする関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは支援の方法を話し合い、家族の絆を活かし、より良いケアを行えるように一緒に考えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもちろん、友人、親戚の方など面会に来て頂いている。利用者の方がいつでも連絡が取れる様に支援している。	友人の方に面会に来てもらったり、電話や年賀状での連絡を取り持つなどして継続的な交流ができるよう支援している。また、昔から利用している美容室を希望されている方には、美容室の方に協力を得て送迎をしてもらっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の活動を一緒に行う中で、共通の話題などを見つけ、関わりあえるように努めている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した利用者、家族の方が、その後、安心して生活できるように支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望等は、日常の会話等で把握し、また、困難な場合は、家族よりアドバイスをもらい、把握に努めている。	日々のかかわりの中で、会話や表情などから意向の把握に努めている。意向表出が困難な場合は、家族から情報を得たり、話し合いをしながら本人本位に検討している。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴などは、家族や本人から情報を得ている。また、入居前のサービス利用の経過等は、関連の機関などから情報を得ている。	
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム、体調の変化等記録に残す等、現状を総合的に把握できるよう努めている。	
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師の意見を反映させケアマネを中心に、全職員で意見の交換を行いながら、計画を作成している。	本人、家族、医師の意見を聴き、担当職員が介護計画の原案を作成した後、職員全員で話し合い、ケアマネが総括し、作成している。3か月毎のモニタリング、介護計画の見直しを行い、現状に添った介護計画を作成している。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を細かく記録し、常に見直せる様になっている。また、職員間で情報を共有しケアプランへ反映させている。	
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、本人や家族のニーズに応えられるよう、柔軟な対応が行えるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽しく生活して頂けるように、地域の行事など出来るだけ参加している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員の付き添いにて受診されている。本人及び家族の希望に応じて、適切な医療が受けられるように支援している。	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。通院介助は家族と協力して臨機応変に対応している。母体が病院ということもあり、利用者の健康管理、急変時の体制が確立されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、併設病院より看護師が訪問し、一人一人の健康チェックや、ケアに繋がるアドバイスをもらっている。また、いつでも必要に応じて相談できる体制になっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医とは密に連絡を取り、利用者に合った対応が取れる体制にしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、本人・家族に説明し、方針を出してもらっている。	契約時に「重度化した場合における対応に関する方針」を本人、家族に説明している。	「重度化及び看取りの指針」を作成し、家族、医師、職員が利用者の状態を共有し、重度化対応の承諾書を作成し、利用者や家族の同意を得ることが望まれる。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修にて訓練等を実施。マニュアルを作成している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を実施。また、災害時には、併設の病院・老健より応援が駆けつける体制をとっている。	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施している。また、夜間を想定し、隣接する法人施設の協力を得て、事業所内訓練を実施している。区長さんを通じて住民の方にも呼びかけはしているが、まだ、協力は得られていない。	近隣に住宅がなく協力が得られにくい状況ではあるが、運営推進会議を利用して住民の方への参加協力の依頼を続けていくことと、非常食の準備などが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合わせた言葉掛けを行い、誇りやプライバシーを損ねる事のないよう接遇マナーを心掛けている。	接遇マナーの研修を行い、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけやプライバシーを損ねることのないような対応を心がけている。個人情報の保護には細心の注意を払っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自己決定にて生活して頂けるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コミュニケーションを中心としニーズを聴き、本人のペースに出来るだけ合った生活をして頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	併設施設で月四回移動理美容が開かれる為、希望により利用されている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に会話しながら食事の準備や後片付けを行っている。	利用者と職員と一緒に、テーブルで料理の盛り付けや準備、後片付けを行っている。食事は、季節感を舌で感じ、職員も利用者と同じテーブルで会話を楽しみながらゆっくりと食事を味わっている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を使い、摂取量を把握している。また、必要に応じて水分量もチェックする様にしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員の声掛けにて行ってもらっている。また、自分で行えない方は介助にて口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人一人の排泄パターンを把握し、出来る限りトイレでの排泄を心掛けている。	職員は利用者の排出パターンを把握し、1日中オムツを使用していた方が、日中は布パンツで過ごせるようになったり、夜間もポータブルトイレを利用して排泄してもらうなど、排泄の自立に向け職員は日夜奮闘している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便を心掛け、飲食物の工夫を行うが、改善ない場合は下剤等も使用している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望を聴き、入りたい時に入浴して頂いている。夜間のみ職員数が少なくなるため、介助が必要な方は17時までに入浴して頂いている。	曜日は決めずに、利用者の希望に応じて対応している。夜間帯も見守りで、入浴できる方には入浴してもらうなど、利用者の希望を大切に支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に決めておらず、それぞれに合った時間に休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明を個々にファイリングし、いつでも確認できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業(洗濯・掃除・食事準備・手芸)をそれぞれ出来る方にして頂いている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・ドライブ・園芸など、一人一人に合わせ、戸外に出れるように支援している。	食材の買い物、ドライブ、散歩などに出かけていくことも多く、誕生日の方には、希望に応じて、外食に行くなど、利用者の意向を大切に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は本人に管理してもらっている。個人の希望に合わせて買い物へ出掛けている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、電話をかける支援を行っている。手紙等も必要に応じて援助している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるように、飾りや花を飾っている。	廊下やリビングなどが広々とし、ホーム全体が明るく居心地よい共用空間となっている。リビングからは中庭のコスモスや畑や作物の生育が見え、季節感を感じてもらえるよう配慮している。家族や元職員から花や苗をいただき、季節感ができるように工夫をしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は、一人一人、思い思いの場所で過ごされ、他入居者の方と話をしたり手芸など作業をされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、本人が使い慣れた馴染みのあつる物を持参して頂いている。	利用者の使い慣れた、タンス、テレビ、仏壇、冷蔵庫などを持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるように、安全でプライバシーも確保され、快適な生活が送れるように配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が苦痛と思われない様に心掛け、残存機能を活かし、自立した生活が送れる様に支援している。		